

2023年8月 1日池内淑皓

2023年4月10日(月)快晴。前日安房天津駅そばの“こもればいINN”に宿泊した。翌朝、市役所支所前から7:57の一番バスで清澄寺に行く。清澄寺でお参りした後、寺院前から快適な林道を歩いて登山道に入り、元清澄山(344m)に登って、ゴールの金山ダムに到る13.5kmの山道コース。疲れも取れたしルンルン気分で歩こう  
但し、金山ダム発のバスは15:25が最終であるから、時間配分をキチントしないとゴール出来ない。



②「もみ・つがのみち」コース案内板 (首都圏自然歩道連絡協議会)



コース図 (起点は清澄寺→元清澄山→金山ダム) 13.5 km、4時間30分コース



コースタイム（説明板には、英語でも案内が記述されている）



前日宿泊した“ひだまり INN” 快適な宿だった



朝一番 7:57 支所前発のバスで、清澄寺に向かう。路線バスはないが、鴨川市のコミュニティバスが運行されている



清澄寺バス停に 8:10 到着



ここに掲示されている関東ふれあいの道案内板には、前日アウトとなった㊸コース通行禁止の張り紙があった



「清澄寺」宝亀二年（771）不思議法師が開基、当初は天台宗の寺であったが、徳川秀忠の命により真言宗となった。本尊は虚空蔵菩薩。俗に開運出世の仏様と言われる



「仁王門」寺域は広く、3.4万坪の広さを持ち、文化財を多数擁している



千光山清澄寺は日蓮ゆかりの寺で、12歳の時父に伴われて、この寺に入る。  
諸国修行の後、32歳で寺に戻り新しい宗教を開いた、日蓮宗である



「本堂」清澄山山頂、「旭の森」で、昇る太陽に向かって「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えた。  
日蓮宗の第一声である（首都圏自然歩道 武村岳男（山と溪谷社刊）



「千年杉」 国指定 天然記念物 境内に繁茂



根回り 17.5m 樹高 47m 今なお樹勢が強い。房総の魅力 100 選となる



寺域を出て、バス道路を外れて、道標に従って御台林道と言う名の林道に行く



林道の北側は、東京大学農学部の演習林だと表示されている



道は舗装されているが、車は通させないようだ。森は縦・梅の自然林が広がる



つがの若木があちこち道端に生えていた



いきなり番所跡の案内板が目飛び込んできた。ここに古道が通っていたのかな



林道は道標もしっかりしているし



標石も半ば落ち葉に埋もれてはいたが、しっかり置かれていた



御台林道と別れて元清澄山への登山道に入ると



とたんに道は荒れて来る。柵は朽ちているし



案内板も木と一緒に倒れたまま





崖が崩れて、道標も一緒にそのまま



谷側は崖が崩れて足場が危うい



危険な箇所は鎖が付いているから、大丈夫



登山道は本来このようなトレースが付きものだ、林道を歩くよりはるかに楽しい



元清澄山へ 200m、道標の根方には梅の若木がたくさん生えていた



「元清澄山」(344m) 頂上に関東ふれあいの道石標が建つ、見晴らしは悪い



ここは昔、清澄寺が建てられていたと伝える、常緑広葉樹の宝庫と言われている



南へ進路を取ると、台地は明るくなり、シダ類が繁茂するようになる



南側は亜熱帯の樹林が多く繁茂している



明るく開けた痩せ尾根の、アップ・ダウンの繰り返りで、高度を下げて行く



ゴールの金山ダムまで4.5km、バスは15時25分発が最終であるから急げ！



林道に出た ダムまで1.4km



ダムサイトに到着、ここまで来れば大丈夫。バスに乗れる



「金山ダム」昭和 27 年より 14 年の歳月をかけて作られた灌漑用のダム、この湖の畔に中世の山城があった



「金山城跡」1580 年（天正 8）大多喜城主正木氏の属城として機能していたが、1581 年家臣の裏切りにより殺害され、以降廃城となる



ゴールの金山ダムバス停に 15 時 05 分に着いた、15 時 25 分の終バスに間に合った



16 時 39 分の“特急わかしお”に乗れば、東京駅には 18 : 40 に着く。

今回の歩行は、時間との戦いで難所の通過と、清澄山の登下の時間配分に苦慮した

[参考タイム] 役場前バス停 (7 : 57) →清澄寺 (8 : 10-8 : 35) →元清澄山登山口 (10 : 17-10 : 20)  
→清澄山 (12 : 05-12 : 15) →金山ダム (14 : 50-14 : 55) →金山ダムバス停 (15 : 05-15 : 25)  
→安房鴨川駅 (15 : 55-16 : 39) →東京駅 (18 : 40)

(金山ダム発-鴨川行のバス時刻 : 6 : 50/8 : 30/12 : 00/15 : 25 のみ)

この項完

「関東ふれあいの道 (千葉) ㊸滝のあるみち」に続く